

平成 22 年度 日本臨床歯科補綴学会 学術大会 特別講演抄録

【セッション 1-1】

「日本臨床歯科補綴研修会 基本 8 か月コースの日常臨床導入」



田中希代子

たなか歯科医院

私は、平成 14 年に初めて、「日本臨床歯科補綴研修会 基本 8 か月コース」を受講し、以来、毎年再受講してきました。小出教授の熱心なご講義は、毎年エスカレートし、その更新された情報量の多さに圧倒されるばかりであります。

しかしながら、その根底にあるコンセプトは全くぶれることはありません。それは、「補綴治療の基本は、残存組織の保全と機能回復率の向上の両立である」ということ、そして、この原則は補綴治療のみならず、歯科治療全般に渡って言えることであるということです。そして、それを達成するための、顎機能の診査診断の重要性とその具体的手法について、様々な工夫を凝らして、より分かりやすく受講生に伝えてこられています。

「日本臨床歯科補綴研修会 基本 8 か月コース」で学んだ基本原則に基づき、歯科治療を行うことによって、全顎的な咬合再構築を行うケースにおいても、迷うことなく、安心して治療を進めることができます。

本日は、主に、矯正用のインプラントアンカーを用いた全顎的な矯正治療のケース、総義歯と全顎的なインプラント修復のコンビネーションのケースを通して、「日本臨床歯科補綴研修会 基本 8 か月コース」で学んだことをどのように日常臨床に導入しているかについてお伝えしたいと思います。

平成 22 年度 日本臨床歯科補綴学会 学術大会 特別講演抄録

【セッション 1-2】

「日常臨床を振り返る

- 1) 保険点数と日常臨床
- 2) フルデンチャーの製作
にあたって当クリニックが注意して取り組んでいること」



蒔田哲也

マキタ歯科クリニック

現在、私達が置かれている環境を踏まえて、義歯に対する高い要望に対しどのようにチームアプローチをしているか紐解いてみる。その要望は患者サイドとしては決して無理難題を我々に問いかけている訳ではない。ただ日常生活をおくる上で『何でも良く食べれて痛くない義歯。さらに異物感が少なく見た目もよければなお結構。』と願っているだけです。術者サイドにとって治療内容は、十人十色であり難題に直面する場面も多くあるのも事実です。しかしながら術者の知識と技術不足がその要望を叶わないものにさせてしまっている事も少なくないはず。いずれにしても日常臨床では、目の前の患者に全力で向き合うしかありません。自ずと私の臨床現場もそのようにしていますが、肩肘を張る様な事はありません。だれでも患者満足度の高い総義歯作りについて一度は学習してきているはず。それを実践し継続し続けているかが、「義歯臨床成功への鍵」ではないかと思っています。

今回は、皆様といっしょに患者にも術者にも易しい総義歯臨床について考えてみたいのです。

「全部床義歯治療への提案」



森野 隆

モリノ 歯科技工所

有床義歯患者数は今後増え続け、15年後には約2倍になると言われている昨今、患者さんの要求度は高まる一方で、治療内容のさらなる高度化が強く求められています。

このようの中、一人でも多くの患者さんの期待に応じるために、ドクターに「全部床義歯治療の43項目」の各治療段階を、私なりにまとめたものを提案しています。その事を今回お話させていただきたいと思います。

【セッション 2-2】

「補綴システムの崩壊から見えてくるもの
～インプラント開発者とラボサイドからの視点」



河尻克己

K9 Function Dental Lab

インプラントに関わらず装着した補綴物が壊れたり、フィクスチャーや歯牙の脱落や破折という“補綴システムの崩壊“という現象は臨床の現場では少なからず起きている事と思います。この現象は患者様にはもちろんですが全ての歯科医療従事者や材料メーカーにとっても大きなダメージとなります。

「壊れる」という現象を目の当たりにした時、患者様からのクレーム、信頼関係の不調和、修理・再製に伴う経済的・時間的 圧迫など、どうしてもネガティブな印象が先に立ちます。このイメージの為か「壊れる」という現象が一つの病的現象かもしれないにも関わらずトラブルの対処としての論点は責任の所在や金銭的な負担が主になりがちです。なぜ壊れたのか、この現象が何を意味するのか等、最も重要な検証がおろそかなまま修理や再製が行われ、同じ現象を繰り返しその場しのぎの対処という悪循環を断ち切り同じ過ちを繰り返さない為にも「壊れる」という現象を病態として認識し直し適切な対処を確立しなければ患者様との信頼関係もやがて崩壊してしまうのではないのでしょうか。マテリアルの進化により壊れない補綴物が注目されている今こそ、壊れる事により守られるモノがある事を認識した上で「壊れる」を再検証する必要があるでしょう。

私は少し変わり者の技工士で、大学の研究所及びメーカー勤務時は各種インプラント、骨補填剤、各種関節、歯冠用材料などのセラミックス素材に関連するバイオマテリアルの開発を主に担当して参りました。そのタスクの一環としてインプラントの強度設計とともに数十例のインプラントの脱落、破折等の現象の解析を行って参りました。その原因は様々ですがほとんどがヒューマンエラーと補綴物の形態によると思われるものでした。残念ながらこの場で皆様に全ての現象と適切な対処法をお示しする事は来ませんし壊れる事を無くする事は出来ないと考えております。実際のトラブル症例を供覧頂いただきながらこの機会にインプラントのトラブルが意味するものをご一緒に考える契機となれば幸いです。